

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	清水 茂
評価者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	清水 茂

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	県立生涯学習施設年間利用者数	人	380,000 (R7)	374,217 (H30)	376,790 (R1)	B
施策2	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	人	9,000 (R2)	8,275 (H30)	7,087 (R1)	C
施策3	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	6,000 (R2)	7,286 (H30)	9,136 (R1)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)	(年度)						
施策1	課題1	県民大学の充実	石川県民大学校修了者数(累計)	人	18,000 (R2)	18,410 (H30)	19,201 (R1)	1 県民大学校費	県民	39,308	39,717	A	継続
								2 ふるさと学習推進事業費	県民	2,500	2,446	B	見直し
	課題2	図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間検索件数	件	188,000 (R2)	203,252 (H30)	171,880 (R1)	図書館マルチ検索・予約システム運営費	県民	18,231	18,146	B	継続
施策2	課題1	心の教育の推進	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	点	29,000 (R2)	29,987 (H30)	28,224 (R1)	心の教育推進事業費	青少年等	6,841	6,841	B	継続
	課題2	親学び講座「肝心かなめの1年生塾」の開催支援	「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合	%	100 (R1)	100 (H30)	100 (R1)	家庭教育総合推進事業費	新小学校1年生の保護者	1,264	1,055	B	継続
	課題3	インターネット等の適正利用の推進	各学校における学習会の実施率	%	100 (R1)	100 (H30)	100 (R1)	インターネット等適正利用推進事業費	保護者	1,712	1,692	B	継続
施策3	課題1	いしかわ子ども自然学校の実施	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	6,000 (R2)	7,286 (H30)	9,136 (R1)	いしかわ子ども自然学校推進事業費	小・中学校生	6,382	6,319	A	継続
	課題2	海洋チャレンジプログラムの実施	参加児童・生徒の満足度	%	概ね100 (R1)	100.0 (H30)	99.3 (R1)	海洋体験活動推進事業費	小学校4年生～中学校3年生	1,346	1,331	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民大学校費	事業開始年度 H2	事業終了予定年度
	根拠法令 第2期石川の教育振興基本計画	
	計画等	

作成者	組織 生涯学習センター	職・氏名 担当課長 斎藤 みどり	電話番号 076 - 223 - 9572	内線 721220
------------	--------------------	-------------------------	------------------------------	------------------

事業の背景・目的
 県民の多様な学習ニーズに対応するため、市町、大学、各種団体等と連携し、県内全域で教養、文化、健康など様々な分野の講座を開設する「県民大学校」の運営や生涯学習センター主催の県民大学校講座を実施し、県民に学習機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 県民大学校・大学院の開設
 - ・大学校教養講座(30単位未満)
 - ・大学校専門講座(30単位以上)
 - 5コース:文化探究、国際理解、スポーツ・生活、能力開発、放送利用
 - ・大学院石川の博士養成講座(30単位)
 - 2コース:専修コース(文学・自然・歴史)、講師養成コース
 - 2 県民大学校・大学院修了証書交付式の開催
 - ・修了生に修了証書を交付
 - ・記念講演会
 - 3 講座の開設
 - ・ファシリテーター養成講座、あすなる悠々塾、能登文化講座など
 - 4 放送利用講座の開設
 - ・テレビ番組「ふれあい空間いしかわ」(26回放送)、「いしかわ大百科」(17回放送)
 - 5 広報等
 - ・ポスター、受講案内等の作成・配布など

- これまでの見直し状況**
- ・H11年度 県民大学校大学院「石川の博士」養成講座を開講
 - ・H15年度 県民大学校能登校開校
 - ・H20年度 「生涯学習コーディネーター入門講座・実践講座」を「いしかわいきいき講座」、「生涯学習ファシリテーター養成講座」に再編
 - ・H22年度 「あすなる悠々塾」を開設し、県民が自主企画した講座を実施
 - ・H25年度 「ふるさとモット学び塾」(ふるさとふれあい講座、ふるさとふれあい現地講座、ふるさと発見出前講座)を新設
 - ・H27年度 センター主催講座に子育て世代を対象とした「ファミリー・カレッジ in 本多の森」を新設 各種講座、講演会等の情報をメールで配信する「いしかわマナビーム」を開始
 - ・H28年度 「ふるさとモット学び塾」の再編により、能登校に「ふるさとふれあい能登校講座」を新設
 - ・H30年度 オリンピック・パラリンピックをテーマとした講座を新設
 - ・R1年度 「ふるさとふれあい講座」を加賀、能登で拡大して開催(H30:7回→R1:13回) 小中学生を対象にした「子どもふるさと博士講座」を新設

施策・課題の状況							
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり				評価	B	
課題	県民大学校の充実						
指標	石川県民大学校修了者数(累計)					単位	人
目標値	現状値						
令和2年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
18,000	16,119	16,836	17,604	18,410	19,201		

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	39,319	39,319	39,961	39,901	39,308
	決算	39,255	38,926	39,930	39,709	39,717
一般	予算	39,319	39,319	39,961	39,901	39,308
	決算	39,255	38,926	39,930	39,709	39,717
財源	事業費累計	1,085,774	1,124,700	1,164,630	1,204,339	1,244,056

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	県民大学校では、子育て世代を対象とした講座「ファミリー・カレッジin本多の森」において、石原良純氏など著名な講師を招いた講演会を実施するなど講座内容の充実に努めた結果、年間の受講者(入校者)数は11,449人(前年度比+449人)となった。 また、修了者数は791人と、昨年度からわずかながら減少したものの開校からの修了生は延べ19,201人に達し、多くの県民の学習の場となっている。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県民大学校実施機関との連携を強化し、県民に提供できる講座数の拡大を図るとともに、魅力のある講座や広報活動の充実、さらには若年層受講者の開拓などにより、県民大学校の受講者数、修了者数の増加を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ふるさと学習推進事業費	事業開始年度 H25	事業終了予定年度	作成者	組織 生涯学習センター	職・氏名 担当課長 斎藤 みどり	電話番号 076 - 223 - 9572 内線721220
	根拠法令 ・計画等	第2期石川の教育振興基本計画				

事業の背景・目的
 おもてなしの心の源であるふるさとへの愛着と誇りを持てるよう、石川の文化・歴史・自然・産業等についての知識を深める講座「ふるさとモット学び塾」を開設し、広く県民にふるさと学習の機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 石川の歴史・文化・自然等をテーマとした講座「ふるさとふれあい講座」
 - ①生涯学習センターにおいて講座を開催 10回(定員:各130名)
 - ②加賀・能登方面において講座を開催 13回
 - ・生涯学習センター能登分室で開催 7回(定員:各40名)
 - ・加賀・能登方面の文化会館等で開催 6回(定員:各100名)
 - 2 史跡・偉人ゆかりの地等を巡る「ふるさとふれあい現地講座」
7回(定員:各30～40名)
 - 3 小中学校、公民館への出前講座「ふるさと発見出前講座」
19回(小中学校11回、公民館各8回)
 - 4 小中学生向けふるさと学習講座「子どもふるさと博士講座」
5回(定員:50名)
- 小学校4年生～中学生を対象に、「金沢城」や「石川のまつり」など郷土を代表するテーマを設定のうえ、一つのテーマを深く掘り下げ、「ふるさと博士」を認定する。
- ・R1テーマ「金沢城」
 - ・開催時期:夏休み時期
- 5 講座のインターネット発信
「ふるさとふれあい講座」等の動画配信

これまでの見直し状況

- ・H25年度 「ふるさとモット学び塾」(ふるさとふれあい講座、ふるさとふれあい現地講座、ふるさと発見出前講座)を新設
- ・H30年度 「ふるさとふれあい現地講座」定員の拡大(定員35名→定員40名)
- ・R1年度 「ふるさとふれあい講座」を加賀、能登で拡大して開催(H30:7回→R1:13回)
小中学生を対象にした「子どもふるさと博士講座」を新設

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	評価	B			
課題	県民大学校の充実					
	指標	石川県民大学校修了者数(累計)		単位	人	
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	18,000	16,119	16,836	17,604	18,410	19,201

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	1,280	1,280	1,100	1,100	2,500
	決算	1,007	1,156	1,100	1,061	2,446
一般	予算	1,280	1,280	1,100	1,100	2,500
財源	決算	1,007	1,156	1,100	1,061	2,446
事業費累計		4,343	5,499	6,599	7,660	10,106

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「ふるさとふれあい現地講座」の人気は高く、全7講座の募集総定員290人に対して、応募総数は516人であったが、従来の金沢会場に加えて新たに能登と加賀に会場を設けた「ふるさとふれあい講座」では、全16講座の募集総定員1,900人に対して、応募総数は1,239人で、特に能登・加賀での申込みが少なかった。 講座の内容については、実施後のアンケートによると受講者満足度(「とても良かった」「良かった」)は、「ふるさとふれあい現地講座」では98.8%、「ふるさとふれあい講座」でも94.9%と高く、魅力のある講座を提供することができた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	3年後の北陸新幹線の県内全線開業に向け、より多くの県民におもてなしの心の源でもある、ふるさと石川への誇りと愛着を深めていただくため、R元年度から会場を加賀、能登にも拡大して実施した「ふるさとふれあい講座」を、会場市町と連携して地域住民への浸透を図る。 また、R元年度に新たに開講した「ふるさと子ども博士講座」は、募集定員50人のところ、募集初日に定員に達し募集を締め切るほど好評であったことから、R2年度は受講の機会を増やすため、実施回数を増やし、幅広い世代に向け、ふるさと学習の機会を提供する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	図書館マルチ検索・予約システム運営費	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
		根拠法令	第2期石川の教育振興基本計画		
		計画等			

作	組	織	図書館		
成	職・氏名	企画協力グループ 主幹 鷲澤 淑子			
者	電話番号	076	-	223	-
				9581	内線 77247

事業の背景・目的
 多くの県民に図書館を利用していただくため、県内図書館の蔵書を一括して検索できる横断検索システムの運用や県内市町立図書館等の間で図書貸し借りができる相互貸借を実施し、利用者が身近な図書館で受取・返却できるサービスを提供する。また、県立図書館が所蔵する大型絵図等の貴重資料をデジタル化してインターネット公開するなど、県民の利便性向上を図る。

- 事業の概要**
- (1) 図書館業務システムの管理と運用
 - ・貸出・返却、蔵書管理等の図書館電算業務の運用
 - (2) 「図書館情報ネットワーク」システムの運用
 - (3) 「図書館情報県民開放」システムの運用

インターネット予約・相互貸借利用件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
インターネット予約	16,802	17,876	18,976	21,903	21,402	20,924	22,108
うち相互貸借	8,407	8,258	8,981	11,710	11,926	10,654	9,233

- (4) 図書館横断検索システムの運用
 - 横断検索システム検索件数
- | 年度 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 横断検索システム | 148,439 | 163,296 | 186,251 | 192,165 | 191,598 | 203,252 | 171,880 |

- ◆ 石川県立図書館電算化システムの経緯
 - 平成 9年度 県立図書館電算システム導入・運用開始
 - 10年度 インターネットによる「ライブラリーネットいしかわ」(石川県立図書館ホームページ)の運用開始
 - 14年度 インターネット横断検索システム本稼動
 - 24年度 県立図書館電算システム更新
 - 令和 元年度 県立図書館電算システム更新

- ◆ 石川県内公共図書館 電算化の現状(H31.3)
 - ・電算システム導入館:公共図書館33館(県立1、市町立32)
 - ・横断検索システム参加館:公共図書館34館(県立1、市町立33)大学等5、計39館

これまでの見直し状況

H24年度 システム更新
 県内図書館ポータルサイトを開設し、相互貸借に係る事務を効率化
 「デジタル版『石川県史』、延宝金沢図」をインターネット公開

25年度 ホームページ「貴重資料ギャラリー」に新たに資料338点を公開

27年度 インターネット上で所蔵する大型絵図等のデジタル化画像を公開開始

30年度 横断検索システムに石川高専が参加

R元年度 新図書館に向けた対応も今後可能となるようシステム更新

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	評価	B			
課題	図書館マルチ検索・予約システムの運営					
	指標	横断検索システム年間検索件数		単位	件	
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	188,000	186,251	192,165	191,598	203,252	171,880

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	19,004	19,004	18,520	28,716	18,231
	決算	19,004	19,004	18,517	27,755	18,146
一般	予算	19,004	19,004	18,520	28,716	18,231
	決算	19,004	19,004	18,517	27,755	18,146
財源	決算	19,004	19,004	18,517	27,755	18,146
事業費累計		839,504	858,508	877,025	904,780	922,926

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか) 今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	左記の評価の理由 B 横断検索システムアクセス数(171,880件、前年度比-31,372件)、相互貸借数(91,573件、前年度比-8,234件)は伸びていないが、インターネットを使った個人予約(22,108件、前年度比+1,184件)は伸びており、インターネットを使った個人利用の定着がうかがえる。 継続 今後とも、県民が県内全域で図書館サービスを受けられるようインターネットの活用や、県内図書館との連携・協力により、非来館型サービスの効果的な運用に取り組む。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 心の教育推進事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
	根拠法令	第2期石川の教育振興基本計画		
	・計画等			

作	組	織	生涯学習課		
成	職	氏名	課長補佐 粟生山 貴子		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1839 内線 5607

事業の背景・目的
 いじめ・不登校や非行の問題、生活習慣の乱れなど子どもたちを取り巻く状況は、依然として憂慮すべき状況にあり、「生きる力」の核となる豊かな人間性を培う、いわゆる「心の教育」が求められている。
 このため、学校・家庭・地域が連携し、心の教育の充実に向けた各種事業を展開し、社会全体で、子供の豊かな心を育む気運の醸成を図る。

- 事業の概要**
- 1 心の教育推進総括事業
 - ・心の教育推進協議会の開催
 会長に教育長、学校・家庭・地域を代表する委員19名で構成(会長含)
 - ・心の教育推進大会の開催
 - 2 家庭・地域教育力向上推進事業
 - ・親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」の募集
 - ・グッドマナーキャンペーンの実施
 - ・子どもの生活リズム向上推進事業
 - ・ラジオ広報(24回放送 各方面で活躍する県ゆかりの方へのインタビュー)
 - 3 いじめ・不登校対策事業
 - ・高校生ボランティアリーダー養成事業
 - ・自然体験活動による不登校対策事業
 - ・いじめ問題対策特別委員会の開催

- これまでの見直し状況**
- H12 豊かな心を育む県民大会(現在の心の教育推進大会)の開始
 - H13 グッドマナーキャンペーン開始
 - H17 ラジオ広報開始
 - H20 子どもの生活リズム向上推進事業開始
 - H21 グッドマナーキャンペーンの声かけ対象を小学生にまで拡大。
 - H23 豊かな心を育む教育推進県民会議を廃止し、新たに心の教育推進協議会を設立。
(「石川の教育振興基本計画」における「心の教育」の推進。)
 - H24 高校生ボランティアリーダー養成事業の実施
 - H28 心の教育推進事業に自然体験による不登校対策事業(自然体験わくわく夢塾実施)を追加

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価	C
課題	心の教育の推進					
指標	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数			単位	点	
目標値	現状値					
	令和2年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	29,000	28,496	29,421	29,556	29,987	28,224

事業費						
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費 予算	7,940	8,543	7,980	7,122	6,841	
事業費 決算	7,940	8,543	7,945	7,122	6,841	
一般 予算	7,940	8,543	7,980	7,122	6,841	
財源 決算	7,940	8,543	7,945	7,122	6,841	
事業費累計	454,884	463,427	471,372	478,494	485,335	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「親子の手紙」の応募数は、児童生徒数の減少や学校の多忙化改善の影響を受け減少したものの、県内全児童生徒約3割の応募率を維持していること、またグッドマナーキャンペーンの参加者数(141,406人)が過去最多となるなど、家庭での温かな触れあいや公共マナー向上等の意識を大切にし、社会全体で子供の豊かな心を育む気運の醸成に繋がっている。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	いじめ・不登校や非行の問題など子供達を取り巻く課題は、一層複雑になってきており、社会全体で子供の豊かな心を育む気運の醸成のため、今後も引き続き、学校・家庭・地域が連携した各種事業に取り組む。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 家庭教育総合推進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作成者	組織	生涯学習課			
	職・氏名	課長補佐 南 寿樹			
	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608			

1. 事業の背景・目的
 家庭教育は、家族のふれ合いを通して、子供が、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしている。
 しかし、都市化や核家族化に伴い、子供に関する不安や悩みを相談できる人がそばにいない環境や、仕事のため子供と接する時間が十分に持てないといった状況などを背景に、家庭の教育力の低下が指摘されている。
 このため、小学校や中学校に入学する子供を持つ保護者を対象に、規則正しい生活リズムの重要性や、成長・発達段階をふまえた子供との関わり方などを掲載した親学びに関する冊子を配付するとともに、全公立小中学校において家庭教育講座を開催し、保護者への啓発に取り組む。
 また、企業にも出向いて、働く保護者やこれから親となる社員を対象とした家庭教育講座を開催する。

2. 事業の概要
(1) 親学び冊子の作成
 ① 配付時期: 小中学校入学説明会等
 ② 内容: 成長や発達段階に応じた親の役割、子どもとの関わり方等
 ③ 部数: 各13,000部

(2) 家庭教育講座の開催
 ① 学校で実施
 入学説明会など保護者が集まる機会に、教職員やスクールカウンセラーなどを講師として、親学び講座「肝心かなめの1年生塾」を全公立小中学校において実施

② 企業への出前講座を実施
 専門家(大学教授、臨床心理士など)をワークライフバランスの推進に取り組む企業等へ派遣し、講座を実施

3. 事業の効果
 ・親学びの冊子や講座により、保護者の家庭教育への学びを深める。
 ・悩みを気軽に相談できる機会を提供することにより、入学後の保護者の不安をやわらげる。

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価	C
課題	親学び講座「肝心かなめの1年生塾」開催支援					
指標	親学び講座「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合				単位	%
目標値	現状値					
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	100	100	100	100	100	100

事業費						
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費 予算	1,800	1,080	840	1,780	1,264	
事業費 決算	1,768	1,020	782	1,453	1,055	
一般 予算	1,800	1,080	840	1,780	1,264	
財源 決算	1,768	1,020	782	1,453	1,055	
事業費累計	3,483	4,503	5,285	6,738	7,793	

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">B</p> <p>全公立小中学校において親学び講座「肝心かなめの1年生塾」を開催し、保護者への啓発に取り組み、参加した保護者のアンケートでは、「とてもよかった」が90%と、高い満足度を得た。 また、各学校では、親学び講座の終了後に保護者に対し、悩み相談を受け付けるなど、個別の支援も積極的に行い、入学前の不安軽減に向けて対応した。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">継続</p> <p>保護者が家庭での教育の大切さを理解し、基本的な生活習慣や社会的なルールを身に付けさせるなど家庭教育を行うことが重要であることから、引き続き、各小中学校において親学び講座を開催するとともに、企業にも出向いて、働く保護者やこれから親となる社員に対して講座を実施するなど保護者へのさらなる啓発に取り組む。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 インターネット等適正利用推進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作	組	織	生涯学習課		
成	職	氏名	課長補佐 南 寿樹		
者	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608			

事業の背景・目的
 近年、スマートフォン等の普及により、小中学生でも簡単にSNSやオンラインゲームが利用できるようになり、書き込みによるいじめやネット依存、SNSを介して犯罪に巻き込まれるなど、様々なトラブルが発生している。
 このため、保護者に対して、ネットに潜む危険性から子どもを守るための啓発パンフレットを配付するとともに、県内全ての公立小中高等学校において、このパンフレット等を活用した保護者向けの学習会を実施し、インターネット等の適正利用の周知啓発に努める。

- 事業の概要**
- 1 「親子のホッとネット大作戦」パンフレットの作成・配付
 - (1)内容 ネットに潜む危険性やその安全対策、家庭でのルール作り等
 - (2)対象 小・中・高等学校・特別支援学校の全保護者
 - (3)部数 148,000部
 - (4)時期 7月
 - 2 インターネットの適正利用に関する学習会(情報学習会)の開催
 - (1)内容
各学校において、保護者に対し、子供のインターネットの利用に潜む危険等についての学習会を開催
 - (2)時期 11月の教育ウィーク期間中など、保護者が多く集まる時期
 - 3 事業の普及
各学校の取組等をホームページへに掲載し、事業の周知を図る

施策・課題の状況					
施策	学校・家庭・地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	評価	C		
課題	インターネット等の適正利用の推進				
指標	各学校における学習会の実施率	単位	%		
目標値	現状値				
令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
100	100	100	100	100	100

事業費					
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費 予算	2,678	1,712	1,712	1,712	1,712
事業費 決算	2,636	1,601	1,702	1,702	1,692
一般 予算	2,678	1,712	1,712	1,712	1,712
財源 決算	2,636	1,601	1,702	1,702	1,692
事業費累計	5,136	6,737	8,439	10,141	11,833

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 啓発パンフレットを作成し、県内すべての小中高校生の保護者に配付した。 また、全公立小中高等学校において、保護者向けの学習会を実施し、SNS上のトラブルやネット依存への注意喚起、保護者がフィルタリングを設定することや家庭のルール作りが大切であることなどについて啓発に取り組んだ。 さらに、中学卒業を機にスマートフォンの所持率が急増することから、県内全中学3年生の保護者向けの啓発リーフレットを作成・配付した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 近年の子どもを取り巻くインターネットの変化にも対応できるように、引き続き、パンフレットの配付、学習会の開催などにより、最新の情報を保護者に伝え、インターネットに潜む危険性、フィルタリングの必要性や家庭のルールづくりの大切さの啓発に取り組む。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ子ども自然学校推進事業費	事業開始年度 H14	事業終了予定年度	作成者 組織 生涯学習課 職・氏名 課長補佐 南 寿樹 電話番号 076 - 225 - 1839 内線 5608
	根拠法令 ・計画等	第2期石川の教育振興基本計画	

事業の背景・目的
 白山青年の家及び少年自然の家を中心に、県内の関連施設や市町と連携して「いしかわ子ども自然学校」を開校し、石川の豊かな自然をいかした自然体験・宿泊体験の機会を提供することにより、子どもの自然を大切にする心やたくましく生きる力を育む。また、子どもたちの自然体験活動を支援する指導者・ボランティアスタッフを育成する。

- 事業の概要**
- (1) 自然体験・宿泊体験等のプログラムの提供
- ・オールシーズンチャレンジ
年間を通じて参加する四季折々のプログラム
 - ・サマーチャレンジ
いかだ体験や沢登りなど、夏ならではのプログラム
 - ・ファミリーチャレンジ
キャンプや地引き網など、親子の絆を深めるプログラム
 - ・グローバルキャンプ
外国人スタッフ等と交流することで、異文化や外国語に触れるプログラム

- (2) 推進体制の整備
- ・指導者養成事業
子ども自然学校ボランティア養成事業
(実施主体: 白山青年の家、白山ろく・鹿島・能登少年自然の家)
 - ・学習教材等の整備充実
事前、事後学習及び野外活動に必要な教材備品等の整備

- (3) 広報・PR活動
- 案内パンフレットの作成(小学4～6年生に配布)
 - ファミリーチャレンジ案内リーフレットの作成(小学1～3年生に配付)
 - グローバルキャンプの案内チラシの作成(小学5～6年生に配付)

これまでの見直し状況

H14～H18 学校活動型実践推進事業(毎年50校、5ヵ年で全小学校に自然学校の実施費を補助)
 H15～H19 インタープリターセミナー(自然体験指導者研修)への教員派遣(毎年50校)
 R1 「グローバルキャンプ」プログラムを新設
 H15～H19 インタープリターセミナー(自然体験指導者研修)への教員派遣(毎年50校)
 R1 「グローバルキャンプ」プログラムを新設

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	A
課題	いしかわ子ども自然学校の実施					
指標	「いしかわ子ども自然学校」参加者数		単位	人		
目標値	現状値					
	令和2年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	6,000	7,217	7,626	7,364	7,286	9,136

事業費					
(単位: 千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費 予算	5,207	5,207	5,207	5,207	6,382
事業費 決算	5,170	5,149	5,203	5,206	6,319
一般 予算	5,207	5,207	5,207	5,207	6,382
財源 決算	5,170	5,149	5,203	5,206	6,319
事業費累計	189,046	194,195	199,398	204,604	210,923

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin-left: 10px;">A</p> <p>4・5月の申込時期に県庁19Fロビーでいしかわ子ども自然学校のパネル展示、申込案内、施設紹介のコーナーを設け自然体験の魅力について広く県民にPRしたほか、イワナつかみや地引き網体験、河川遊び等これまで好評であったプログラムを引き続き実施するとともに、今年度、新たに小学生が外国人と自然体験を通じて交流し、様々な異文化や外国語に触れる「グローバルキャンプ」を開講するなど、プログラムの充実を図った結果、過去最高の9,136名の参加があった。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin-left: 10px;">継続</p> <p>自然体験活動は自然を大切にする心を育むと共に社会で求められるコミュニケーション能力や自立心などを養う効果もあることから、今後とも、より多くの子供たちに参加してもらえるよう広く周知するとともに、子供たちが石川県の豊かな自然に触れながら、充実感や達成感を感じられるプログラムの提供に努める。 また、令和2年度は、新たに、いしかわの冬季の自然に触れる「ウインターチャレンジ」を実施する。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	海洋体験活動推進事業費	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作	組	織	生涯学習課		
成	職	氏名	課長補佐 南 寿樹		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1839 内線 5608

事業の背景・目的
 能登高校実習船「おおとり丸」を活用し、環境学習として海水やプランクトンなどの生物調査やロープワークなどを行う七尾湾洋上体験コースと、舢倉島で野鳥・植物観察などの環境学習や島の人々との交流などを行う離島体験コースの2コースを実施する。
 こうした海洋体験を通して、子どもたちに自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせるとともに、社会で求められる自立心や協調性などの涵養を図る。

- 事業の概要**
(1) 体験内容
 ①Aコース(洋上体験+少年自然の家)
 [1日目]・鹿島少年自然の家: 自然体験活動(いかだ体験、野外炊飯、星空観察)
 [2日目]・「おおとり丸」: 七尾湾洋上体験活動(海水・生物調査等の環境学習、ロープワーク)
 ・のとじま水族館: 施設見学
 ・鹿島少年自然の家: 集団宿泊体験(肝だめし)
 [3日目]・大島海岸の地引き網体験
 ・期日: 7/24～26、7/31～8/2 (2回)
 ・定員: 72人
- ②Bコース(少年自然の家+離島体験)
 [1日目]・能登少年自然の家: 自然体験活動(大型カヌー体験、磯遊びなど)、離島体験の事前学習
 [2日目]・舢倉島: 離島体験活動(島の人々との交流、野鳥・植物観察による環境学習)
 [3日目]・能登少年自然の家: 離島体験の発表会
 ・期日: 7/26～28、8/2～4 (2回)
 ・定員: 100人

- (2) 対象**
 Aコース 小学校4年生～中学校3年生
 Bコース 小学校4年生～中学校3年生

これまでの見直し状況
 H25 定員の増加 Aコース42人増加 (H24(30人/2回)) Bコース10人増加 (H24(50人/2回))
 行程の拡充 1泊2日→2泊3日
 直営から委託への切り替え
 H26 Aコースの定員・回数の見直し (H25(18人×4回)) → (H26(36人×2回))
 H27 Bコースの対象児童の見直し(4年生を対象に拡大)
 H29 Aコースの対象児童の見直し(4年生を対象に拡大)
 Aコースのプログラム内容の変更(釣り体験→地引き網体験)

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	A
課題	海洋チャレンジプログラムの実施					
	指標	参加児童・生徒の満足度			単位	%
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	100	98.2	96.3	98.7	100.0	99.3

(参考)参加者数					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	170	166	152	129	150

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	1,569	1,569	1,466	1,466	1,346
	決算	1,517	1,529	1,455	1,414	1,331
一般	予算	1,569	1,569	1,466	1,466	1,346
財源	決算	1,517	1,529	1,455	1,414	1,331
事業費累計		7,863	9,392	10,847	12,261	13,592

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 左記の評価の理由 令和元年度は、2倍超の申込があるなど県民の高い関心が見られ、150人が参加した(昨年度比+21人)。また、児童・生徒の満足度は、99.3%と引き続き高い水準を維持しており、本事業のねらいの1つとして掲げている海洋体験活動を通して自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせることができた。また、集団生活を通して子ども同士の関わりが深まり、協力することの大切さなどを体感させることができた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 より多くの子供たちに参加してもらえよう、専用のチラシを作成し、対象児童全員に配付するなどの広報を続けるとともに、参加者のアンケート結果も踏まえながら、引き続き、魅力ある海洋プログラムの提供に努める。